

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 24 年 2 月 9 日 (2012.2.9)

【公開番号】特開 2010-144124 (P2010-144124A)

【公開日】平成 22 年 7 月 1 日 (2010.7.1)

【年通号数】公開・登録公報 2010-026

【出願番号】特願 2008-325414 (P2008-325414)

【国際特許分類】

C 0 8 L 83/06 (2006.01)

C 0 8 K 3/26 (2006.01)

C 0 8 K 5/548 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 83/06

C 0 8 K 3/26

C 0 8 K 5/548

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 12 月 19 日 (2011.12.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) 分子中にケイ素官能基として平均 2 個以上のシラノール基および / またはケイ素原子に結合したケトキシマト基を有し、23 における粘度が 20,000 ~ 1,000,000 mPa・s であるケイ素官能性ポリオルガノシロキサン 100 重量部に対して、

(B) 分子中に 1 個のシラノール基またはケイ素原子に結合したケトキシマト基を有するケイ素官能性ポリオルガノシロキサン 5 ~ 100 重量部と、

(C) 平均粒子径が 0.5 ~ 10 μm の炭酸カルシウム 20 ~ 200 重量部と、

(D) 架橋剤である加水分解性基を有するシラン化合物 0.5 ~ 25 重量部、および

(E) 硬化触媒 0.01 ~ 10 重量部

をそれぞれ含有してなり、

前記 (D) 成分である加水分解性基を有するシラン化合物は、(D1) メルカプト基を有する加水分解性基含有シラン化合物を、前記 (A) 成分であるケイ素官能性ポリオルガノシロキサン 100 重量部に対して 0.05 ~ 5.0 重量部の割合で含有することを特徴とする室温硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

【請求項 2】

前記 (D) 成分である加水分解性基を有するシラン化合物の一部として、ケイ素原子に結合したケトキシマト基を有するシラン化合物を含むことを特徴とする請求項 1 記載の室温硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

【請求項 3】

前記 (D1) メルカプト基を有する加水分解性基含有シラン化合物は、前記加水分解性基としてメトキシ基またはエトキシ基を有することを特徴とする請求項 1 または 2 記載の室温硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

【請求項 4】

前記 (D) 成分である加水分解性基を有するシラン化合物の一部として、ケイ素原子に結合した置換または非置換の炭化水素基を有するシラン化合物を含有することを特徴とす

る請求項1乃至3のいずれか1項に記載の室温硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

【請求項5】

前記(D1)メルカプト基を有する加水分解性基含有シラン化合物を、前記(A)成分であるケイ素官能性ポリオルガノシロキサン100重量部に対して、0.1～4.0重量部の割合で含有することを特徴とする請求項1乃至4のいずれか1項に記載の室温硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

本発明の室温硬化性ポリオルガノシロキサン組成物は、(A)分子中にケイ素官能基として平均2個以上のシラノール基および/またはケイ素原子に結合したケトキシマト基を有し、23における粘度が20,000～1,000,000mPa・sであるケイ素官能性ポリオルガノシロキサン100重量部に対して、(B)分子中に1個のシラノール基またはケイ素原子に結合したケトキシマト基を有するケイ素官能性ポリオルガノシロキサン5～100重量部と、(C)平均粒子径が0.5～10μmの炭酸カルシウム20～200重量部と、(D)架橋剤である加水分解性基を有するシラン化合物0.5～25重量部、および(E)硬化触媒0.01～10重量部をそれぞれ含有してなり、前記(D)成分である加水分解性基を有するシラン化合物は、(D1)メルカプト基を有する加水分解性基含有シラン化合物を、前記(A)成分であるケイ素官能性ポリオルガノシロキサン100重量部に対して0.05～5.0重量部の割合で含有することを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

【表 1】

	実施例 1	実施例 2	実施例 3	実施例 4	実施例 5	実施例 6	実施例 7	実施例 8	実施例 9	実施例 10
α, ω-ジヒドロキシポリメチルシロキサン	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
トリメチルシロキシ封鎖ポリメチルシロキサン	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
片側末端ヒドロキシポリメチルシロキサン	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
重質炭酸カルシウム (樹脂酸処理) (1.1 μm)	80	80	80							
重質炭酸カルシウム (脂肪酸処理) (1.1 μm)				80	80	80	80			
重質炭酸カルシウム (脂肪酸処理) (6.0 μm)								80		
重質炭酸カルシウム (未処理) (1.1 μm)									80	
重質炭酸カルシウム (未処理) (2.2 μm)										80
3-メルカプトプロピルトリメトキシシラン	0.8	0.8	0.1	0.8	0.1	0.8	4.0	0.8	0.8	0.8
メチルトリス(メチルエチルケトキシ)シラン	8			8						
ヒニルトリス(メチルエチルケトキシ)シラン	2			2						
フェニルトリス(メチルエチルケトキシ)シラン		10	10		10	10	10	10	10	10
N-(2-アミノエチル)-3-アミノプロピルトリメトキシシラン	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
n-プロピルオルシリケート	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
ジブチルジシラケート	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 4 1
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 4 1】

[illegible]